2018年度酪農学園大学野生動物医学センターにおける日本野生動物医学会主催SSC（Student Seminar Course）の実施報告

下岡　誠（酪農学園大学獣医学群獣医学類２年／日本野生動物医学会学生部会酪農学園大学支部ルウェ）
浅川満彦（酪農学園大学獣医学群獣医保健看護学類／日本野生動物医学会SSC実行委員会）

背景とこれまでの概要について

酪農学園大学にて開催されるSSCは，2004年４月に，当時，酪農学園大学動物病院（現・動物医療センター）構内に大学院獣医学研究科の付帯施設として野生動物医学センターWild Animal Medical Center（以下，WAMC）が設置されたのを機に開始された。WAMCでは野生動物医学の研究・教育および啓発に関する様々な活動が展開されている（注：最新内容はfacebook®で随時，紹介。このfacebook®へのアクセスとしてはまず，Mitsuhiko Asakawaでgoogle等のエンジンで検索，トップにFacebook®が表示，選択）。

このSSCは設立年度から前年度まで計13回が実施され（2010年度はFMD対策のため中止），35名の方が参加された（所属大学は北から北海道大学，帯広畜産大学，北里大学，日本大学，東京大学，麻布大学，日本獣医生命科学大学，帝京科学大学，岐阜大学，鳥取大学，宮崎大学および鹿児島大学，学科系統別内訳として獣医27，看護含応用動物8）。そして，今回（2018年９月15日から18日）で14回目の開催となった。

後で述べるように，当該SSCにおける教育内容は浅川とWAMCを拠点とするゼミ生が担当するが，日本野生動物医学会学生部会酪農学園大学支部ルウェに所属する有志の生活面での協力が不可欠である。この団体は，2000年，同部会創立を機に設立され，現在，本学では未公認学生サークルではあるが活発に活動をしている（注：ルウェとはアイヌ語で「足跡」を意味する）。SSC報告も昨年からルウェのSSC担当代表にお任せすることにしている。会員諸兄におかれては，今後も，本学におけるSSCをご支援頂ければ幸いである。

なお，今回はSSC開催直前に北海道を襲った台風（平成30年台風第21号）・地震（北海道胆振東部地震）による直接的および間接的影響が色濃く残る中の実施であったが，大きな問題無く終了したことを申し添える。（浅川 文責）

WAMCにおける第14回SSCの実施報告

以下は本SSC担当の浅川教授に代わり，部会支部としてSSCをサポートした有志代表として下岡が報告を行う。今回のSSCに参加して下さった方は，以下の２名（WAMC・SSCの36および37番目）で，SSC参加報告書は本拙稿末尾に掲載をした。なお，紹介する方々の敬称は略す。

宮崎大学農学部獣医学科１年　　山本茉由（女性）
日本大学生物資源科学部獣医学科３年　菊池優斗（男性）

まず，開催直前に北海道胆振東部地震が発生した非日常の中，SSCが開催できたことに謝意を表した上で，活動報告について述べる。

研修は，例年同様，浅川満彦教授（本学獣医学群）が座学を，WAMC所属の学部４および５年のゼミ生（注：浅川ゼミでは研究室演習の一環として全員参加が義務）が実習を，それぞれ担当した。

ゼミ生の氏名を示す。

４年　西　春季，石島はるか，吉岡美帆，中澤美菜
５年　谷口　萌，大橋赳実，内匠夏奈子

また，例年通り学生部会本学支部のメンバーで，参加者への生活面支援を担当した。

１年　鹿野雪音，今井　薫，增　星来
２年　下岡　誠（SSC担当代表），林　美穂，菅原紗彩，松倉未侑
３年　川久保和希，福元風夏
５年　松根和輝

この他，野幌森林公園をフィールドに行われるセンサス実習では，それの知識と経験が必要なため，ルウェの先輩である６年石黒佑紀，４年 大橋雅英，４年 小亀　瞬にご指導いただいた。

本件は日本野生動物医学会（2003）で提示された「望ましい実習項目」の「基本コース」および「応用コース（Ⅲ）」の一部を基盤に，野外疫学field epidemiologyの視点を涵養することを目的とするもので，参加者はマクロからミクロへと視点を移しながら，これを身に着ける。具体的な内容としては，野外フィール

ド視察に始まり，関連分野の講義，剖検あるいは麻酔用吹き矢の作製と使用法の実習，WAMC に隣接する野幌森林公園森林地帯内の野外実習（センサスと捕獲）などが組み込まれている。なお，今回は WAMC に依頼のあった動物愛護法に抵触する可能性がある事例の検体について，参加者立会いの下剖検される様子を間近で見ることができ，法獣医学的な現場を実見できた。

開催年によっては WAMC 入院中の傷病野生鳥獣の飼育や保定・採血（注：WAMC は北海道庁・北海道獣医師会指定野生傷病鳥獣受診動物病院も兼任），あるいは有害捕獲されたアライグマなどの処置を行うこともあり，job on the site で学ぶことができるのも本 SSC の特徴の一つである。簡単ではあるが，時系列に沿いトピック的な写真とその説明文を記載し，事業報告に代えさせていただく。最後になるが，本 SSC 修了者には野生動物のプロや動物園，水族館でご活躍されている先輩方がいらっしゃると伺っている。本 SSC はそういった進路を考える者にとって大変有意義なものであることは明白である。また，サポートとして携わった身としても，この SSC で野生動物分野への新たな視点を獲得するとともに，複合的に考える力がつくのではないかと考える。

（下岡 文責）

写真１　フィールド視察（左：屋上から全体像を観察，右：北海道胆振東部地震の影響で酪農大キャンパス内では倒木も散見された）

写真２　関連分野の講義（左）と野幌森林公園「ナイトハイク」にて自身の将来像について語る（右）。

写真３　合宿所における食事風景（左：食事の様子，右：ルウェメンバーによる食事準備）

写真４　野外調査実習（左：ラインセンサス，中央，左：シャーマントラップ罠の設置と捕獲アカネズミの放逐観察）

写真５　ゼミ生指導による吹き矢製作実習（左）と試射（中央），WAMC 入院室での剖検実習

写真６　懇親会（左）閉会式（右）

SSC 参加レポート

宮崎大学農学部獣医学科１年　**山本茉由**

私が獣医学科に入学したのは，何か動物たちのための力になりたいという漠然とした考えを持っていたからであり，将来の進路については１年生のうちからしっかりと考えていく必要があると感じていました。考えるにあたって，まずは興味がありつつも現状や獣医師としてのかかわり方を知らない野生動物の世界について学ぼうと思い，SSC に参加することを決めました。SSC ではフィールドワークや解剖などの実習や，野生動物に関する講義を行ってくださり，大変有意義な４日間となりました。

実習では，鳥類ラインセンサス法やサンプリング法，ワナの設置・回収，野生動物の解剖などを学びました。どれも初体験であり，野生動物分野へのアプローチとしてとても参考になりました。現段階ではそのすべてを吸収するのは大変難しいと感じましたが，アライグマや野鳥の解剖をはじめ，その内容は大学の講義ではなかなか実施できないものであり，今後のための貴重な経験としても有意義な実習でした。解剖は座学をすでに学んでいたため，肺や肝臓の分葉や鳥類の気嚢などを実際に観察できたことが大変印象に残っていますが，この実習では，大学の講義で教わった時に食肉類，反芻類，豚といった家畜一辺倒で学習するのではなく，自分でいろいろと調べたり考えたりして様々な動物に興味を持つことも可能であると気づきました。

浅川先生やゼミ生の方々による講義は，野生動物に関する現状を知り今後の進路を考えるうえで大変参考となるものでした。特に傷病鳥獣の救護に関する一連のお話は，自分の「理不尽に傷つく動物を無くしたい」という考えが浅すぎると気づかされ，見つめ直し深めていくきっかけとなりました。１日目夜に行った森の散策では多くの意見や考えに触れることができ，自分の野生動物との関わり方や今後の課題を考える道しるべとなったと思います。またすべての講義がとても充実していたため，講義が終わり質問の有無を尋ねられた時に，初めて学ぶことにもかかわらず疑問が何も生じないことに初めて悔しさをおぼえ，もっと主体的に講義を受けて常に考え続ける姿勢を心がけようと強く思いました。

今回の SSC を通して，野生動物に関わることには様々なかたちがあり，同時に多くの課題があることを知りました。またそれだけではなく，今後の学習をより深くするような姿勢や考え方も多く学ぶことができ，１年生の時に SSC に参加できたことは本当に有意義であったと感じます。たくさんの貴重な経験をすることができたのは浅川先生をはじめ，ゼミ生の方々やルウェの方々の様々なサポートあってのことと，この場を借りて御礼申し上げます。

日本大学生物資源科学部獣医学科３年　**菊池優斗**

９月５日～６日にかけて台風21号と胆振東部地震が北海道に立て続けに大きな被害をもたらした。それから約10日後というご自身らも大変な状況のなかで，今回のSSCを開催していただいた浅川先生をはじめとする関係者の皆様に，この場を借りてお礼申し上げる。

私は今まで，野生動物に直接関係のないものも含めいくつかの実習に参加してきた。しかしフィールド調査に関する知識や実際にフィールドに出た経験はほとんど無かった。また私が所属する日本大学の獣医学科では３年生の後期から研究室選びが始まるため，この時期あたりから本格的にどの研究室に入りたいか考えはじめていた。もともと私は寄生虫に興味があったので，寄生虫に関する研究室に所属したいと考えていた。そこで，寄生虫や野生動物医学の第一人者である浅川先生の下でフィールド調査の初歩や野生動物保全に関することを学ばせていただくとともに，研究室や研究のことを知りたいと思い今回のSSCに参加することに決めた。

本実習に参加して私は最初に，実習先である酪農学園大学の環境に驚いた。学校の目と鼻の先には野幌森林公園があり，様々な野生動物がすぐ近くに生息しているという。身近な場所で野生動物観察ができるということは魅力的である。

実習は同大学付属動物病院のWAMCを中心に，野生動物や寄生虫に関する講義，解剖実習や吹き矢麻酔筒の作製，森林公園での鳥類ラインセンサスやシャーマントラップによる野生齧歯類の採取など多岐にわたる内容だった。解剖実習では小型・中型哺乳類，鳥類，爬虫類の解剖およびその見学をさせていただきとても貴重な経験だった。私が１年生の頃に参加した動物園実習で死産となってしまった大型哺乳類の剖検に立ち会う機会があった。その際担当されていた獣医師の方がとても親切で，細かく教え下さったが，当時の私はまだ解剖学の知識が不十分で理解できないことの方が多かった。しかし今回は有意義に実習を行うことができたと思う。鳥類の解剖で私はフクロウを担当し，大きな猛禽ならではの発達した筋肉などを以前勉強した家禽の解剖と頭の中で比較しながら相違点を探すことができた。また，実習中分からないことや疑問に思ったことがたくさんあったが，研究室の室員である先輩方が教えて下さりスラスラと受け答えしている姿がとても印象に残っている。

浅川先生の講義の中で海外での野生動物医学修士課程のお話しもまた，とても印象的だったことの１つである。ご自身の経験を交えながらコース概要や仕組みを分かりやすく説明していただいた。私自身，将来海外で野生動物に関する研究や現場での経験をしたいと思っているため，この講義は私にとって本当に魅力的だった。

もちろん，ここで詳しく触れていない実習内容も多くのことを学ぶことができた貴重な経験だった。ラインセンサスやシャーマントラップなどのフィールド調査に関する実習は，その言葉すら知らずにいたため，今回のSSCをきっかけにより詳しく学んでいきたいと思う。

今回のSSCに参加して知識の面はもちろん，たくさんの人と新たに出会うことができた。そして出会ったみなさんの野生動物やそれ以外のことに対する考え方や経験を聞くことで，現在３年生であり将来野生動物に関わりたいと思っている私は，自分の将来についてより具体的に考えていかなければと感じた。

最後に冒頭の繰り返しになってしまうが，SSCを主催していただいた浅川先生をはじめ，自習中何度もお世話になったゼミ生の皆さん，生活面をサポートしていただいたルウェの皆さんに改めて御礼申し上げる。